

# 平成 21 年度 学校保健統計調査（広島県分）の概要について

平成 22 年 5 月 28 日  
企画振興局

## 1 調査の概要

この調査は、幼児、児童及び生徒の発育状態及び健康状態を明らかにすることを目的に文部科学省が昭和 23 年から毎年実施しているものです。

この速報は、広島県内の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校のうち、満 5 歳から満 17 歳までの幼児、児童及び生徒の一部を抽出し、発育状態調査と健康状態調査の 2 調査について、平成 21 年度の基本的事項をまとめたものです。

## 2 調査結果の主な特徴

- (1) 身長（平均値）は、男子（5 歳，8 歳）女子（5 歳，8 歳～12 歳，14 歳）の各年齢で前年度の同年齢よりも増加しています。
- (2) 疾病・異常の被患率は、いずれの学校段階においても、「むし歯（う歯）」の者の割合が最も高く、次いで「裸眼視力 1.0 未満の者」、「鼻・副鼻腔疾患」となっています。
- (3) 「むし歯（う歯）」の者の割合は、いずれの学校段階においても前年度より下回っており、全国と比較しても下回っています。

## 3 調査結果の概要

### (1) 発育状況調査

#### ア 身長

身長（平均値）は、男子 5 歳，8 歳において、女子 5 歳，8 歳～12 歳，14 歳において各年齢で前年度の同年齢よりも増加しています。

各年齢間の身長差をみると、男子は 12 歳～13 歳の 7.7cm、女子は 10 歳～11 歳の 6.8cm が最も大きくなっています。

親世代である 30 年前の昭和 54 年度調査と比べてみると、最も差のある年齢は、12 歳男子で 2.9cm、9 歳女子で 2.2cm と親の世代より高くなっています。（表 1）

表 1 年齢別身長の平均値

（単位：cm）

校種・年齢	男 子					女 子					
	平成 21 年度			昭和 54 年度		平成 21 年度			昭和 54 年度		
	A 広島県	前年差	全 国	B 広島県	(A-B)	A 広島県	前年差	全 国	B 広島県	(A-B)	
幼稚園	5 歳	110.2	0.1	110.7	109.8	0.4	109.6	0.1	109.9	109.0	0.6
	小学校	6 歳	116.4	0.0	116.7	115.2	1.2	115.3	△0.2	115.8	114.6
小学校	7 歳	121.6	△0.6	122.6	120.7	0.9	120.7	△0.4	121.7	119.9	0.8
	8 歳	127.8	0.3	128.3	126.2	1.6	127.1	0.1	127.5	126.1	1.0
	9 歳	132.8	△0.6	133.6	131.2	1.6	※133.4	0.4	133.5	131.2	2.2
	10 歳	138.2	△0.4	138.9	136.2	2.0	139.6	0.5	140.3	137.6	2.0
	11 歳	144.2	△0.7	145.1	142.5	1.7	146.4	0.2	146.9	144.6	1.8
	中学校	12 歳	151.5	△0.3	152.5	148.6	2.9	151.3	0.1	151.9	149.9
13 歳		159.2	△0.1	159.7	157.1	2.1	154.2	△0.4	154.9	153.9	0.3
14 歳		164.4	△0.3	165.2	163.1	1.3	156.1	0.5	156.7	155.4	0.7
高等学校	15 歳	167.8	0.0	168.5	166.1	1.7	156.5	△0.3	157.3	155.8	0.7
	16 歳	168.6	△0.4	169.9	168.3	0.3	156.5	△0.8	157.7	156.4	0.1
	17 歳	169.8	0.0	170.8	168.9	0.9	157.0	△0.8	157.9	156.4	0.6

(注) 1 □ は最大身長差のある年齢間を示す。

(注) 2 ※は調査実施以来の最高値を示す。

## イ 体 重

体重（平均値）は、女子10歳、14歳、15歳で全国平均値を上回っています。

各年齢間の体重差をみると、男子は11歳～12歳、12歳～13歳でそれぞれ5.5kg、女子は11歳～12歳の4.7kgが最も大きくなっています。

親世代である30年前の昭和54年度調査と比べてみると、17歳男子で3.5kg、10歳女子で2.1kgと最も増加しています。

また、親世代との差は、女子に比べ男子の方が大きくなっています。（表2）

表2 年齢別体重の平均値

（単位：kg）

校種・年齢	男 子						女 子					
	平成21年度			昭和54年度			平成21年度			昭和54年度		
	A		全 国	B		全 国	A		全 国	B		
	広島県	前年差		広島県	(A-B)		広島県	前年差		広島県	(A-B)	
幼稚園	5歳	18.9	0.2	19.0	18.7	0.2	18.5	0.0	18.6	18.3	0.2	
小学校	6歳	21.5	0.1	21.5	20.4	1.1	20.9	△0.3	21.0	20.1	0.8	
	7歳	23.5	△0.4	24.1	22.7	0.8	23.2	△0.1	23.5	22.4	0.8	
	8歳	27.2	0.3	27.2	25.5	1.7	26.2	△0.1	26.5	25.4	0.8	
	9歳	30.1	△0.4	30.6	28.3	1.8	29.9	0.3	30.0	28.2	1.7	
	10歳	33.5	△0.2	34.2	31.5	2.0	34.4	0.7	34.1	32.3	2.1	
	11歳	37.6	△0.8	38.4	35.7	1.9	38.9	△0.2	39.0	37.0	1.9	
中学校	12歳	43.1	△1.3	44.2	40.0	3.1	43.6	△0.6	43.8	42.0	1.6	
	13歳	48.6	△0.8	49.1	46.5	2.1	46.8	△0.7	47.3	46.6	0.2	
	14歳	53.5	△1.3	54.3	51.9	1.6	50.3	0.1	50.2	48.7	1.6	
高等学校	15歳	58.6	△0.3	59.5	55.6	3.0	51.7	0.9	51.6	50.8	0.9	
	16歳	60.5	△0.4	61.3	58.2	2.3	52.4	△0.3	52.8	51.8	0.6	
	17歳	62.7	△0.1	63.1	59.2	3.5	52.8	△0.2	52.9	52.2	0.6	

（注）1   は最大体重差のある年齢間を示す。

（注）2   は、全国平均を上回るものを示す。

## ウ 座 高

座高（平均値）は、男子15歳で調査実施以来の最高値となっています。

各年齢間の座高差をみると、男子は12歳～13歳3.8cm、女子は10歳～11歳3.3cmが最も大きくなっています。

親世代である30年前の昭和54年度調査と比べてみると、男子12歳で1.4cm、女子10歳で1.2cmと最も増加しています。（表3）

表3 年齢別座高の平均値

（単位：cm）

校種・年齢	男 子						女 子					
	平成21年度			昭和54年度			平成21年度			昭和54年度		
	A		全 国	B		全 国	A		全 国	B		
	広島県	前年差		広島県	(A-B)		広島県	前年差		広島県	(A-B)	
幼稚園	5歳	61.5	△0.2	61.9	62.1	△0.6	61.3	0.0	61.5	61.6	△0.3	
小学校	6歳	64.8	0.0	64.9	64.7	0.1	64.4	△0.2	64.5	64.2	0.2	
	7歳	67.4	△0.3	67.7	67.3	0.1	67.0	△0.1	67.3	66.7	0.3	
	8歳	70.2	0.1	70.3	69.7	0.5	69.8	△0.3	70.0	69.6	0.2	
	9歳	72.6	△0.1	72.7	71.6	1.0	72.7	0.2	72.7	71.6	1.1	
	10歳	74.8	△0.1	75.0	73.8	1.0	75.9	0.3	75.9	74.7	1.2	
	11歳	77.4	△0.2	77.6	76.5	0.9	79.2	0.1	79.3	78.2	1.0	
中学校	12歳	80.9	△0.3	81.3	79.5	1.4	82.1	0.1	82.1	81.3	0.8	
	13歳	84.7	△0.3	84.9	83.7	1.0	83.5	△0.3	83.7	83.5	0.0	
	14歳	87.7	△0.3	88.1	87.0	0.7	84.6	0.1	84.8	84.6	0.0	
高等学校	15歳	※90.1	0.1	90.3	88.9	1.2	85.2	△0.2	85.3	85.1	0.1	
	16歳	90.8	△0.3	91.2	90.2	0.6	85.2	△0.3	85.6	85.3	△0.1	
	17歳	91.4	△0.1	91.8	90.6	0.8	85.4	△0.3	85.7	85.1	0.3	

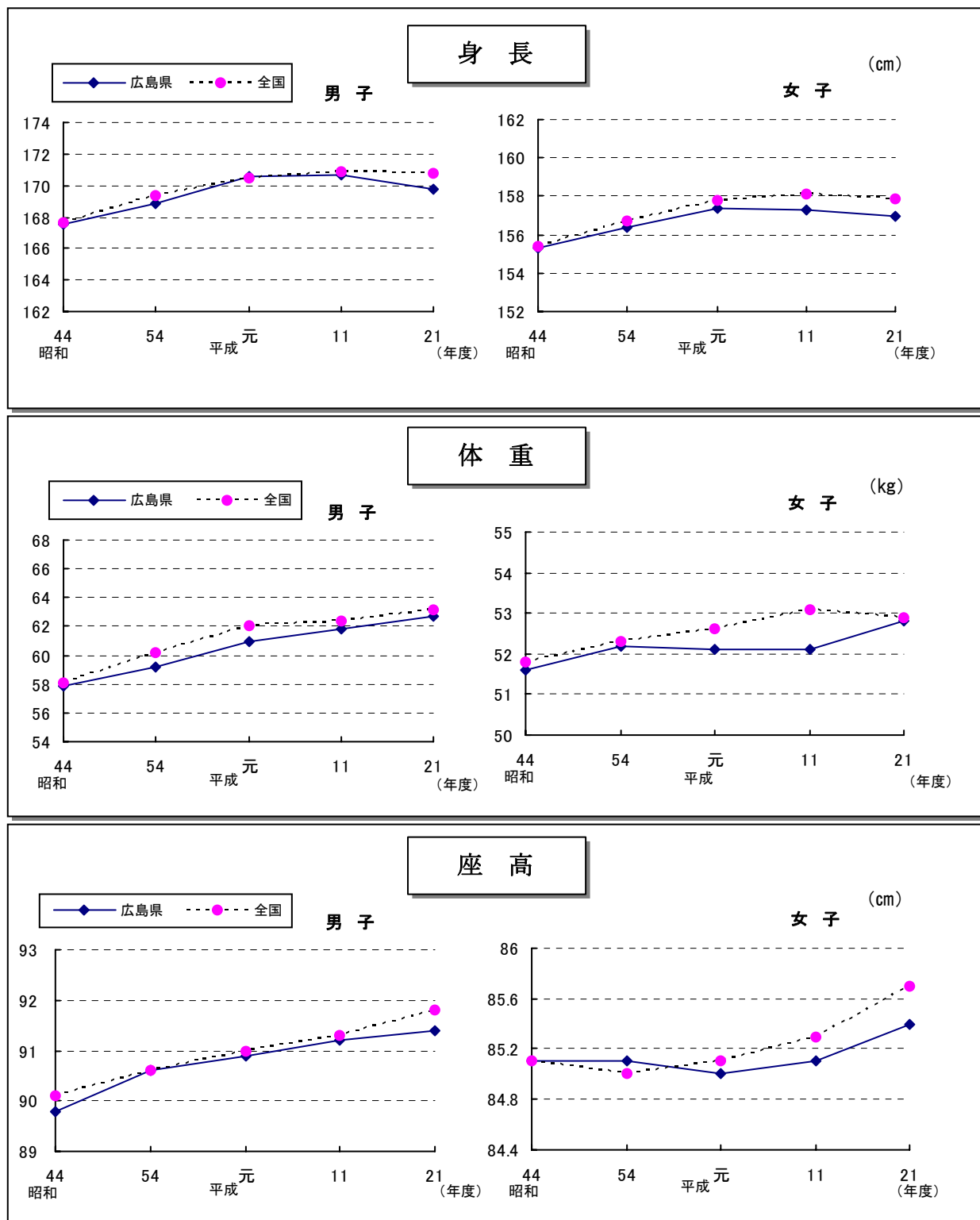
（注）1   は最大座高差のある年齢間を示す。

（注）2 ※は調査実施以来の最高値を示す。

## エ 17歳男女身長、体重、座高の平均値の推移

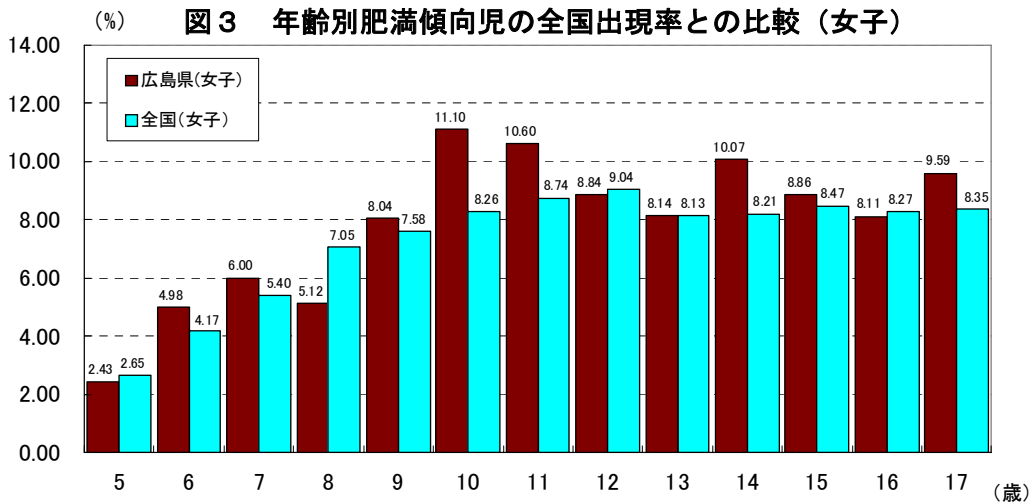
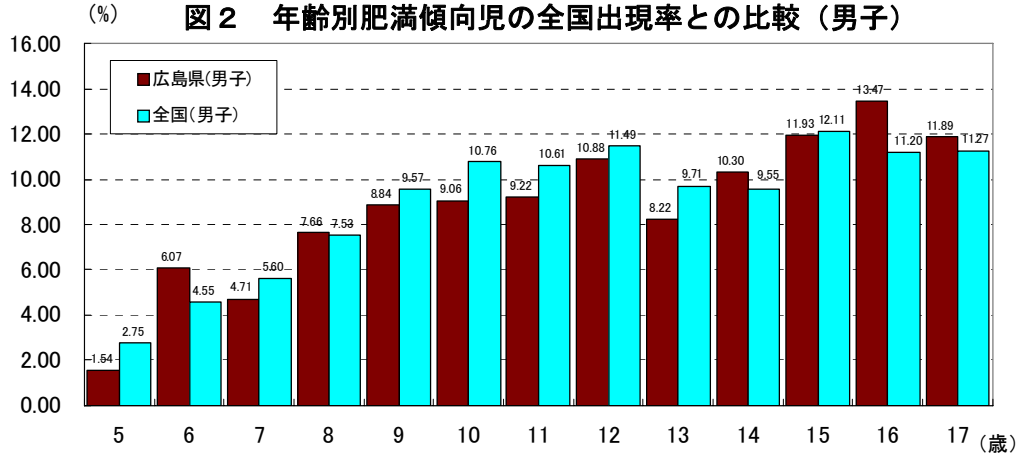
17歳男女における身長、体重、座高（平均値）の推移を昭和44年度からみると、平成元年度以降、男子身長を除くすべてにおいて、全国平均値を下回って推移しています。（図1）

図1 17歳男女平均値の推移



## オ 肥満傾向児の全国出現率との比較

肥満傾向児について、年齢別に全国出現率と比較してみると、男子については、6歳、8歳、14歳、16歳、17歳において、女子については、6歳、7歳、9歳～11歳、13歳～15歳、17歳において上回っている。(図2、3)



(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。算式は、次のとおりである。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100 (\%)$$

身長別標準体重は、次表の身長別標準体重を求める係数表のa, bと実測身長により求める。  
 身長別標準体重 (キログラム) = a × 実測身長 (センチメートル) - b

### 身長別標準体重を求める係数表

年齢・係数	男子		女子	
	a	b	a	b
5歳	0.386	23.699	0.377	22.750
6歳	0.461	32.382	0.458	32.079
7歳	0.513	38.878	0.508	38.367
8歳	0.592	48.804	0.561	45.006
9歳	0.687	61.390	0.652	56.992
10歳	0.752	70.461	0.730	68.091
11歳	0.782	75.106	0.803	78.846
12歳	0.783	75.642	0.796	76.934
13歳	0.815	81.348	0.655	54.234
14歳	0.832	83.695	0.594	43.264
15歳	0.766	70.989	0.560	37.002
16歳	0.656	51.822	0.578	39.057
17歳	0.672	53.642	0.598	42.339

出典：財団法人日本学校保健会『児童生徒の健康診断マニュアル（改訂版）』平成18年

## (2) 健康状態調査

### ア 主な疾病・異常の被患率順位

定期健康診断における幼児、児童及び生徒の各疾病・異常の被患率は、いずれの学校段階においても、「むし歯（う歯）」の者の割合（処置完了者を含む。以下同じ。）が最も高く、次いで「裸眼視力 1.0 未満の者」、「鼻・副鼻腔疾患」となっています。（表 4）

表 4 主な疾病・異常の被患率順位

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%	検査項目	%
1	むし歯（う歯）	43.2	むし歯（う歯）	58.8	むし歯（う歯）	45.2	むし歯（う歯）	55.2
2	鼻・副鼻腔疾患	8.8	裸眼視力 1.0 未満の者	28.7	鼻・副鼻腔疾患	8.6	鼻・副鼻腔疾患	10.0
3	耳疾患	5.0	鼻・副鼻腔疾患	12.1	眼の疾病・異常	5.4	眼の疾病・異常	5.0
4	眼の疾病・異常	3.4	眼の疾病・異常	6.4	歯列・咬合	5.0	歯肉の状態	4.1
5	アトピー性皮膚炎	3.3	耳疾患	4.1	歯肉の状態	4.9	歯垢の状態	4.1
6	歯列・咬合	2.1	ぜん息	4.1	歯垢の状態	4.5	歯列・咬合	3.5
7	ぜん息	2.0	アトピー性皮膚炎	3.4	心電図異常	3.9	心電図異常	2.9
8	言語障害	1.4	歯垢の状態	2.9	アトピー性皮膚炎	3.3	蛋白検出の者	2.8
9	その他の疾病・異常（歯・口腔）	1.1	歯肉の状態	2.7	耳疾患	2.7	耳疾患	2.7
10	その他の皮膚疾患	1.0	その他の疾病・異常（歯・口腔）	2.6	ぜん息	2.7	アトピー性皮膚炎	2.2

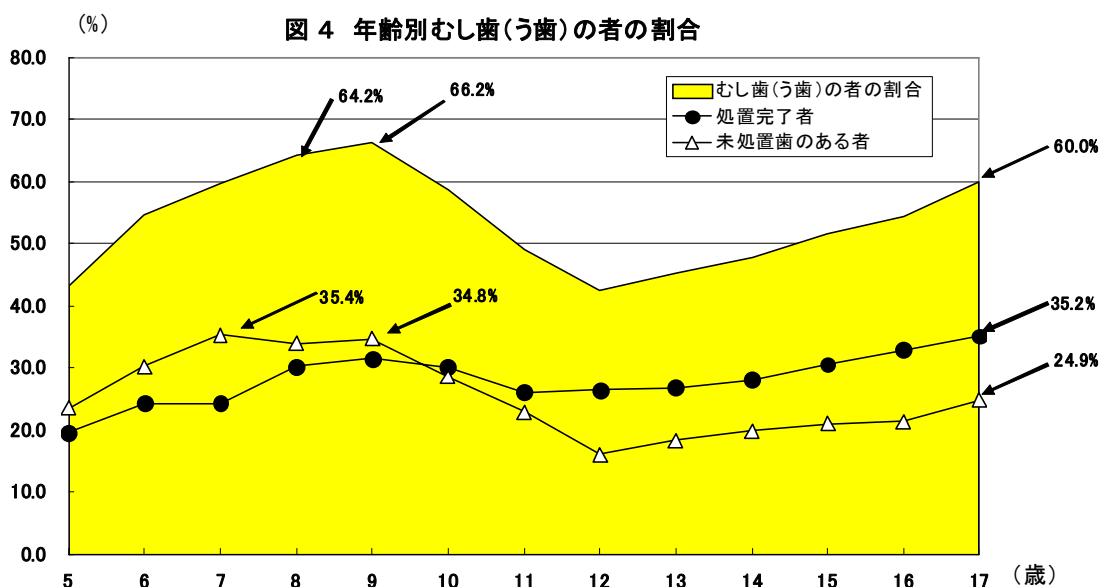
（注）幼稚園，中学校，高等学校の「裸眼視力 1.0 未満の者」は，裸眼視力検査が省略される等サンプル数が少ないため公表されていない。

### イ むし歯（う歯）の状況

「むし歯（う歯）」の者の割合は，幼稚園が 43.2%，小学校 58.8%，中学校 45.2%，高等学校 55.2%となっています。（表 4，図 5）

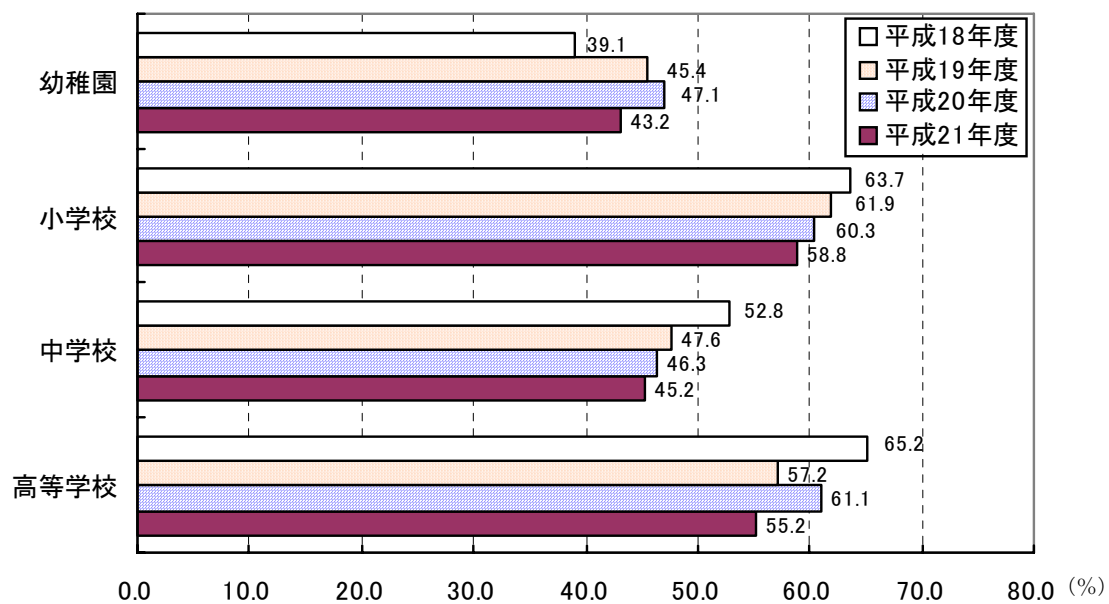
「むし歯（う歯）」の者の割合を年齢別にみると 9 歳が 66.2%と最も高くなっています。

また，処置完了者の割合は，10 歳以降で未処置歯のある者の割合を上回っています。（図 4）



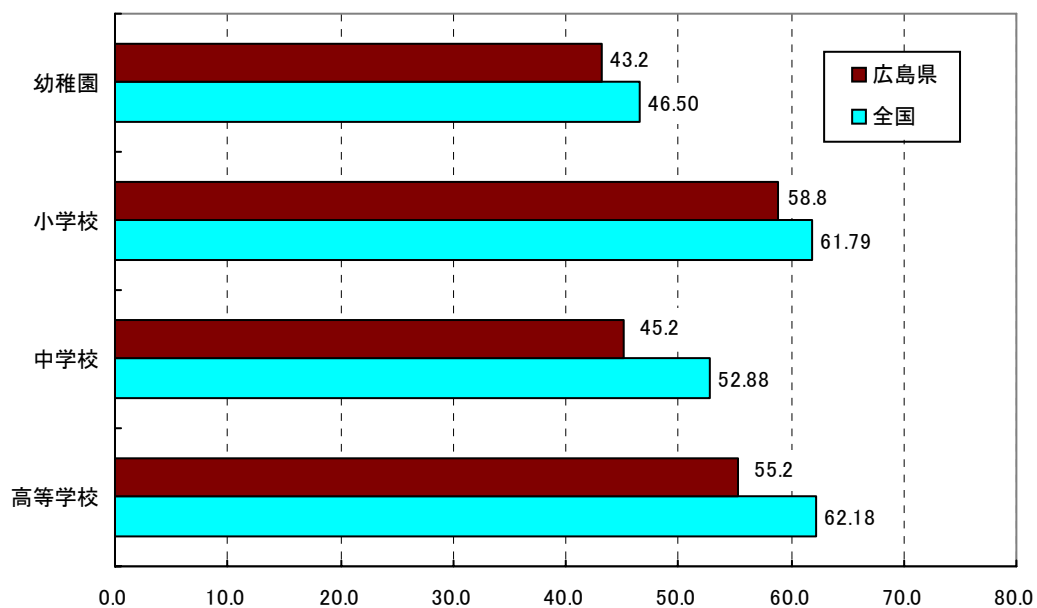
「むし歯（う歯）」の者の割合の推移をみると、いずれの学校段階においても低下傾向にあります。（図5）

図5 むし歯（う歯）の者の割合の推移



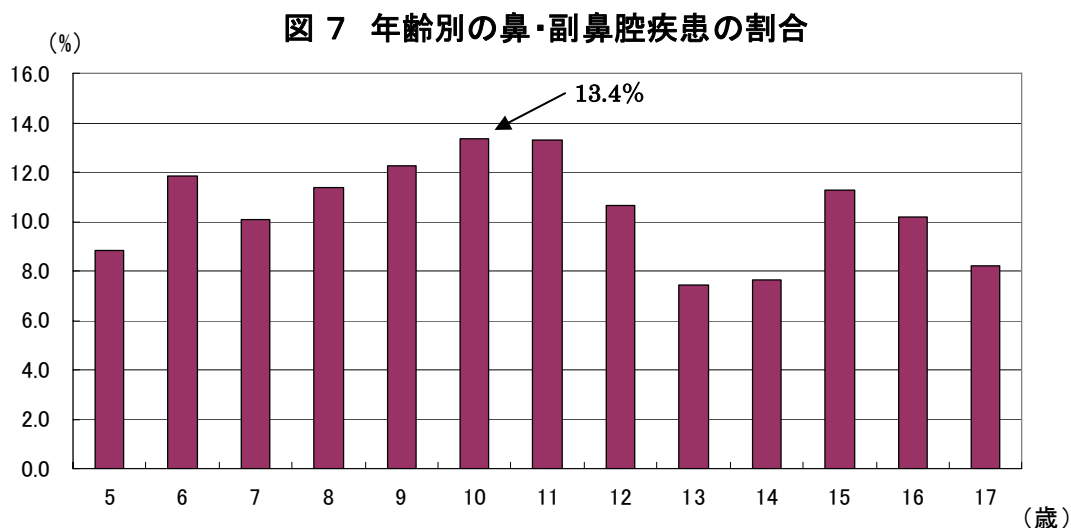
また、全国と比較してみると「むし歯（う歯）」の者の割合は、いずれの学校段階においても下回っており、特に中学校・高等学校において全国を大きく下回っています。（図6）

図6 むし歯（う歯）の者の割合（全国との比較）



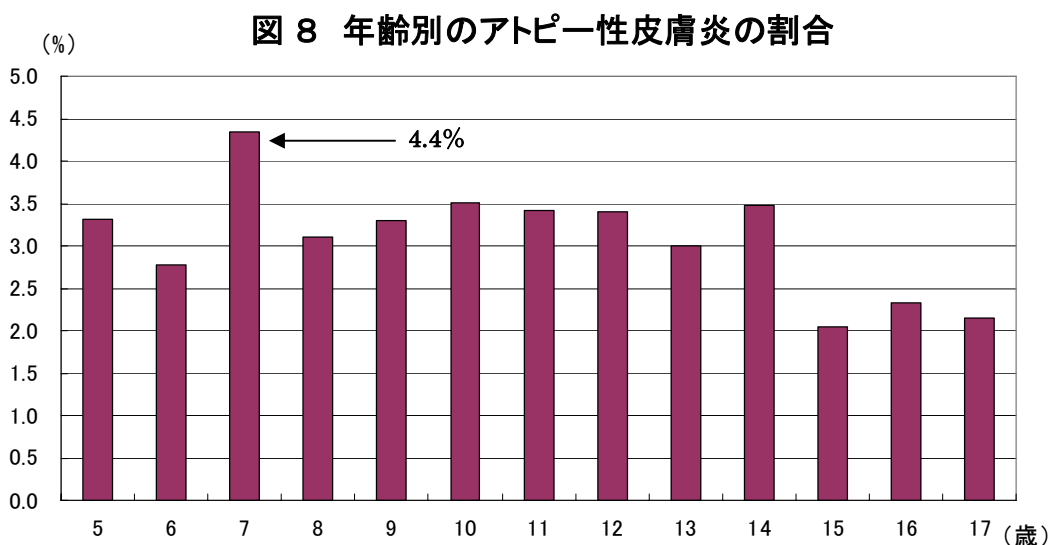
## ウ 鼻・副鼻腔疾患の状況

「鼻・副鼻腔疾患」の割合を年齢別でみると、10歳が13.4%と最も高くなっており、低年齢層で高い傾向があります。(図7)



## エ アトピー性皮膚炎の状況

「アトピー性皮膚炎」の割合を年齢別にみると、7歳が4.4%と最も高く、年齢が進むにつれて低くなる傾向となっています。(図8)



平成21年度学校保健統計調査結果については、広島県のホームページ統計情報「広島県の統計」に掲載していますので、ご覧ください。

ホームページアドレス <http://toukei.pref.hiroshima.lg.jp>

問い合わせ先

広島県企画振興局政策企画部統計課 消費経済・教育統計グループ  
電話 082-513-2534 (ダイヤルイン)